夕刊
十二月十四日發行
定價一ヶ月四拾五錢
郵送料金六拾錢
（毎月末前金）
廣告料
（郵送料共）
一行一回十五錢
一行一ヶ月六拾錢
（但所定の行数に限る）
磐城新聞社
福島縣磐城郡平町
田町十番地
電話一番
磐城印刷株式會社
發行人　柏木哲
發行所　磐城新聞社
發賣所（ヘイライワ）平市五番町
（ヘイライワ）平市五番町
（ヘイライワ）平市五番町

月曜論壇

政變と石城郡

呪はしき不景氣内閣は竟に倒れた。所謂棺を蓋ふて事定まる。一昨年七月二日民政黨内閣の成立以來茲に約二年半、其間の功罪は今回の總辭職を機會として自ら一切合切清算される譯である、顧るに前内閣の失政は之を石城の小天地に就て通觀するも、彼等の錯覺による緊縮節約と無準備なる金解禁が必然の結果としてそこに著しき産業經濟の枯悴を招徠し、市街地農村を通じ、加速度を以て不景氣を深刻ならしめた罪過斷じて掩ふべからざるものありしは勿論、地方景氣の大宗をなす炭鑛に在つては之に原因する船舶の碇繫、諸事業の操短緊縮相踵ぎ、石炭消費量の著しき減退を示して炭價の崩落底止する處を知らず、廢山休鑛續出して既往二年間に於て約一萬近の失業者を出したるが如き實に由々しき社會問題たるを失はない、前内閣税政の殃する處蓋し猫額大なる石城の天地に於て既に斯くの如きものがある、而も尚ほ政策の破綻は直に自家の運命に關するを俱れ徒に言を世界的不況に藉り、專世嘉々たゝ輿論に聽從する良心なく飽迄政權に縋々として責任の大義を設却するかの觀があつた、即ち之と對立する立憲政友會に在つては原くより今にして政策を轉換し振興の大策を樹て狂瀾を既倒に回すに非んば我が天下國家を、小にしては地方民人の將來を奈何せんかを憂ひ、只管既定の大綱たる産業立國の大施を掲げて其根本政策を遂行し、當面の急務として先づ産業五ヶ年計劃を實現し一日も早く景氣を挽込して失業者なからしめ、人心の安定志氣の振興を策して以て、曩年の黄金時代を再現せしむべく虎視眈々時機の到來を期待してゐた、果せるかな民政黨内閣の税政に一段の拍車を加へたかの觀ある第二次若槻内閣は去る四月十四日成立以來八ヶ月目にして潰滅の弔鐘悲しく去つたのである。我れ人と共に天日を仰がんかな。

本社の慰問に對する謝狀一束

今回は小生等のため貴のみです、敵前二百五十米座候間他事乍ら御放心被下度候

再び戰線に起ち度く

無理矢理退院を迫る

奪闘中上膊部を射貫かれた

入遠野村出身折笠勇太郎君

重なる新聞紙を御惠與下され誠に有難く御禮申上げます、扨て小生事は入遠野村出身の一兵卒なれど幸にして今回の事變に參加致し奉天城を攻撃し無事長春に着き警備に就く事約一ヶ月十月二十六日鄭家屯に向ひ同地に五日大平川衛間台洮南と進撃し同地に着いたのが五日午後八時頃でした。それから戰線に向ひました。

―（中略）―攻撃を開始したのが明午前八時頃でした。敵彈は雨あられと飛んで來ます、二十二、三の若人それは御存知の通りよく色氣は百パーセントであります不思議と言はふか砲煙彈雨時に小生も警備について居ますから御放心下さい先下に在つても唯だ敵を斃すと云ふ一字が頭の中にあります。

は小生の右腕上膊部を貫通致し戰線を退きました、同日午後六時江橋臨時野戰病院に入院致しましたが不幸にして大奥以後の戰線に參加する事が出來なかつた事が何としても殘念でなりません。十二日奉天病院に入るは覺悟で居りましたが大興、昂々溪附近の戰ひに參加致しましたが無事齊々哈爾を占領致し目下御蔭樣にて奉天兵營に歸營致し居りますから御安心下さい――（後略）――

溜め錢箱を　平町大工町四六建具師克己長女第同中佐の講演あつた

雨霰の敵彈を浴び

前進約三時間

（平町出身）草野忠君

―先日は懐しき書面下され正に拜見致しました。

―（中略）―今後尚一層皇國の爲奮闘奉公致す覺悟であります。草々

―（前略）本紙を戰地まで運ばれる事は唯一の樂に候厚く感謝致し唯だ吾等は何時も己の背後には九千萬の同胞が付き居る事を忘れず君國のため果てる覺悟に御

捧げた一命

同町出身　田子忠治君

―小生達の身は國家に捧げた身であります、戰死すれば覺悟で居りましたが大興、昂々溪附近の戰ひに參加致しましたが無事齊々哈爾を占領致し目下御蔭樣にて奉天兵營に歸營致し居りますから御安心下さい――（後略）――

依然元氣で

山田村出身　安島喜一君

―拜啓時下嚴寒の砌其後は御變りは有りませんか、私も遠い奉天に來て居ります元氣で軍務に勤めて居りますから御休心下さい――（後略）

平商教練査閲　平商校の教練査閲は今十四日午前八時から若松聯隊留守隊長伊井中佐に依て執行したが成績甚だ良好で午後から

北滿で易簀せる

西牧伍長町葬

十八日湯本町で

北滿の野に護國の鬼と化した砲兵伍長湯本町出身西牧重政君の遺骨は十八日湯本町に刻着するので十九日午後一時から同村小學校庭に於て神佛兩式に依り壯嚴な町葬を執行する

製糸工場の復活で

石炭需用増さん

差當り變化は無いが――と消息通の觀測

本月一日以降十日迄の間に於ける常磐炭山元發送高は（營業用）三、五九二車四四、三八九噸（省用）一、五八〇車二一、八八二噸（合計）五、一七二車六、二七一噸で前年同期に比し最近の例により營業用八一二車八、二一四噸を減せるに反し鐵道用に於て一五二車一、六三六噸を増してゐるので差引合計の減量は六五九車六、五七八噸となつてゐる

平町新風景

記事輻湊休載

尚ほ今後の趨向を達觀するに例年今月來月は製糸工場の休業により需要の減退する月であるが今回の政變により從來休業中の一部製糸會社にして復活するものあらば例年の今月來月に比し若干増加する場合あるべく目下の處磐城、入山、古河等の代表的炭礦には政變による影響と觀るべきものが現れて居ないと

大野道路

擴張起工

大野村字山小屋地内村道四千八十米は路幅狹隘のため同地主要生産物の果實及林産物搬出に不便を感じ夙くより之が改修方を縣に申請圓を補助する旨指令あり一百五十四圓の内二百九十一〇を四米二に擴張すると

當局の說得に折れ

遊興税査定額承認

減額を固持した平三業組合

今春四月縣當局から内示さは八方解決に盡力中であつた郡三業組合に於ける遊興税は之を昨年度と比較し相當減額されて居るも平町外數ヶ町村組合では時節柄初査定額の九千圓を承認し更に一段の減額を要求し矢内郷、植田、湯本方面の解の催促をなす縣當局との間決をも促進する形勢となつに介在せる平税務出張所でた

木炭生産五割増

昨年の七十三萬俵に對し

一躍百十萬俵を突破

濱三郡木炭同業組合に於ける去月中の檢査成績は

石城	七二、二一六俵	
双葉	六四、三〇八	
相馬	一八、八〇三	

合計十五萬五千三百二十七俵に達し昨年同期に比し三萬三千五百五十八俵の増加で尚今年一月以降の累計百十萬三千三百九十九俵は昨年度改修工事費七千三百年の七十三萬六千五百五十二俵に比し實に五割増となり最需用期に入つて益々活氣を呈しつつある

ロロロロロロ木炭同業理事會　濱三郡

木炭同業理事會は二十二日午前十時から平町各種團体事務所樓上で開催明年度事業計劃につき協議する

勤續三十有九年

二代の主に仕へて

杉崎新三郎氏表彰さる

雜誌キングの教育勅語煥發四十週年記念事業たる全國篤行者の表彰に就き過般平町役場にも該當者の詮衡方を依頼して來たので伏見町長は田町十一牛乳搾取業岡田千藏氏方の配達夫杉崎新三郎（四九）さんを推薦した處此程入賞者として同誌上に發表された

氏は山形縣東村山郡大郷村生れで家計が裕かならざるため明治二十五年十才の折牧夫見習として岡田氏の先代次作氏に雇はれて以來三十九年營々として主家に働き今日迄同樣の表彰を受けた事三回に及んだ勤勉家であると

水害豫防補助交附

新川組合へ指令

平内郷飯野一町二ヶ村より

なる新川水害豫防組合では

七福基會忘年大會は昨十三日正午から七七七銀行支店樓上で開催リーグ戰により左記の通り入賞した

1山田勇太郎、2岡田弘成、3山田忠、4菊地德太郎、5萩原申八、6長島菊苗

七福忘年碁會

平町

傾城隧道

十六日竣功

傾城トンネルの掘鑿工事は愈々十六日竣功するので鐵道省松村改良課長廣瀬運輸係長、田中水戸保線事務所長の一行は明十五日來平實地踏査をなすと

ロロロロロロ夏井農事指導　夏井村農會主催の果樹栽培及び温床建設指導會は十六、七兩日

七福忘年碁會

平町同潤會の貧困者調査は昨十三日を以て完了したが該當者百七十戸を認め一兩日中に託鉢を始め近く施米の上舊正月にも金品を施與する事となつた

餅も搗けぬ

百七十戸

同潤會が救濟

同村小學校で開催するが講師は稻田農試分場長である

高岡元代議士盛葬

けふ草野村の人出

元代議士高岡唯一郎氏の葬儀は今十四日午後一時草野村の自宅出棺同村光明寺に於て導師大浦村最勝院住職阿部崇順氏以下十二名の僧侶により執行八田政友會本縣支部長（鈴木縣支部幹事長）木村同郡部會長其他多數の弔詞及犬養總理大臣外多數の弔電朗讀あり葬儀委員長木村代議士の挨拶あつて式を閉ぢたが各方面から贈られた多數の花輪及地方のあらゆる有志を網羅した多數の會葬者で同地空前の盛葬であつた。八田支部長、木村部會長の弔詞次の如し

弔詞

立憲政友會福島縣支部顧問高岡唯一郎君の靈を送るに當り黨員棺を繞つて哭す、君我黨の先覺たる事多年、常に黨員の指導誘掖に最善を悉くし、黨勢の今日ある君の力に負ふ處大なるものあり、今や時局重大の秋に際會し君の指導に俟つ處益々多からんとして突如その訃に接す、我黨の損失何物か之に如かん、而も天壽を藉すに尚ほ數日を以てせず、我黨内閣の出現を驚けせずして泉下に送りたるは黨員一同の深く痛惜に堪へざる處なり冀くは在天の雄魂長へに我黨を冥助せられん事を

立憲政友會福島縣支部長　八田宗吉

弔詞

維時昭和六年師走中の四日、立憲政友會石城郡部顧問高岡唯一郎君の靈幡を送る、嗚呼悲い哉。君資性純情剛果、奉ずるに誠を以てし率ゆるに德寒さが本格的となつて來たあり、少壯力行、終始公爲兒童中特に女兒の凍傷患者が續出するので係の各教事務所樓上で開催する

免狀を變造

運轉手告發さる

小名濱町運轉手宮城縣伊具郡北郷村生れ笠間勝利（三三）は昭和四年三月以來T型フォードの免許證をシボレーの免許證に變造行使してゐた事此程其筋に探知され今十四日告發された

全山にポスター

炭礦火防宣傳

湯本町入山炭礦では昨十三日消防手總出で火の元注意のポスター四千枚を各戸に配布した、尚好間村小田炭礦でも青年團總出で今十四日同趣旨のポスター其他を各戸に配布した

ロロロロロロ好間夜警屯所　好間村消防組第三部では工費百圓を投じ近く夜警屯所を改修すると

ロロロロロロ畜産組合協議　郡産馬畜産組合評議員會は明十五日午前十時から平町各種團体

在滿兵士慰問金出寄

役場其他各團体扱昨報後分

（三十錢）大澤辰男、雨田興三郎、安齋政喜、草刈リン、丹野クメ、田村顯允、上野タブヨ、坂本幸太郎、前田力、山野邊茂治郎（二十錢）伊藤千代、齋瀬リン、清水ハル、齋藤ミサヲ、小峰安次郎、天野ムメ、木田悟郎、佐藤新之介、久保田六五郎、大垣道太郎、川木忠次郎、長谷川二好、佐藤誠孝、鈴木タメ、鈴木勇子、吉田キタ、高橋利太郎、鈴木光子、坂野ミツ、小谷勇太郎、齋藤義作、大谷直次郎、高橋ハツ、伊藤大助、酒井ヨシ、鈴木誠造、山本吉次郎、山本シズ、小林千代、古川萬次郎、片寄寅二、服部セツ鵜沼光、高崎甚太郎、鈴木實、石黒政雄、鈴木染次郎、八木吉松、田久要吉、吉田拾治、宇佐見甚藏、志賀清次郎、鈴木健司、清水英、深澤佐武郎（以下次號）

島田氏童話會

本紙寄稿家島田忠夫氏は來十七日午後一時から平第一小學校兒童の爲に一場の童話を試みると

○傳染病發生　平町字手搦七二酒井嘉雄（四）は今十四日ヂフテリアと判明隔離された

平町慶弔録

△出生　鎌田町六五小林武夫六男利雄

△婚　田町五五高橋一郎（三六）愛知縣温泉郡三浦濱町古三津二六八六川林カネ子（三〇）

初雪

平町地方は一昨十二日夜來温度俄に低下し十三日朝チラ〳〵六花が飛んだがこれ本年の初雪で昨年よりは十日早かつたと

平第三小學校

霜焼け療治

第三小學校では愈々寒さが本格的となつて來たあり、少壯力行、終始公爲兒童中特に女兒の凍傷患者が續出するので係の各教事務所樓上で開催する

平第三小學校

第一校の遠足　平第一小學校兒童千四百餘名は明十五日左記の通り遠足を

（一年）平町物見ヶ岡（二年）飯野村谷川瀬山（三年）同龍門寺（四年）平窪村横山台（五年）内郷村阿彌陀堂（六年）湯本町温泉神社（高一、二）上小川村小玉川發電所

會葬御禮

十二月十四日

高岡文夫

親戚代　酒井國三郎

さのこ

栽培所一切譲る

都合有之安く御相談致しまず。

性名在社

均一賣出し

店頭

十錢均一の山

ゼヒ御來店を……

ヤトモツマ

電話二一四番